

山家 真聞

山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩に感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと

一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること

一、永遠と続く歴史の中にある今を受け継いだモノを守り伝えること

「畏」おそれ

「白山大権現」大河ドラマ真田丸では毎回の様に真田家屋敷の掛け軸に映ります。

前回、真田といえば人物だけを追う傾向が強く、その逆、つまり真田氏が大切にされたものへの視点が、真田氏発祥の真の魅力へとつながると書きました。(…虚勢を張って)

ですがどうでしょう？真田Ⅱ六文銭の系図も変わりつつあるのではないのでしょうか。

地元では白山さま、昭和初期には山家神社白山宮と称えられていた千曲川右岸、つまりは神川水系一帯の鎮守の神を、どうして上田の殿様はこれほどまでに守りぬいたのか。答えは真田の土地とかがろうじて残された宝物にあります。

突然に訪れる数々の有難いご縁を恐れている自分がいます。それは本来神社に伝わる、昔の人が当たり前に感じていた畏敬の念と感謝の心、かな。畏れるという事が薄れている自身を反省し：無鉄砲押森慎



節分祭 笑福

平成二十八年山家神社節分厄除大祭が平成二十八年二月三日(水)に斎行されました。この真田の大地に生活する中であって、冬から春への農事を始めとする節目を無事に迎えられたことを、自然と地域と人が共に喜び合い、また来年もこうしてみんな一緒に祭をしようという無病息災を願う行われたものです。地域全体で人と人とを支え合い、大切に守り伝えられてきた祭、本年もお蔭様をもちまして盛大に執行できました事感謝申し上げます。

通り一辺倒の講釈ではなく生活に根ざしたもので、豆まきは農事の真似事をしてしている予祝(あらかじめ祝うこと)により豊穰を祈念しているとも云われています。そして暴れ鬼は真田の名物です。元気に過ごし、また来年一緒に福を拾いましょう！

「厄除祈願者のお名前は来年まで社殿内にて掲示。お蔭様で山家神社が護持されています。」

福もの 奉納者ご芳名

- 一、ゆきたん 風屋とうふ店様
- 一、バック 宮下俊哉様
- 一、Pティッシュ 大廣建設様
- 一、景品 手作り工房 結様
- 一、菓子 押森幸子様
- 一、軍手 榎岡南様
- 一、Tペーパー 松尾重則様
- 一、景品 JA真田支所様



年男大塚良治様
年女大塚梨恵子様



宝投げ奉仕者 宮下俊哉様
ゆきたん 平野帆高様
小林結喜子様
清水一昭様



第3回 伝えよ 真田神社

前回真田神社が現在とは違う場所にあり、独立したお宮であったことを書いた。なぜこれほどまでに地元の宿願であった真田神社が知られていないのか。大正九年、世の趨勢により維持管理かなわず山家神社境内に遷され、戦後昭和二十五年、旧長村の戦没者のご英霊を合祀。この数十年後に上田城に鎮座する松平神社が上田神社、そして真田神社へと改称。日本に唯一の真田神社が二社存在する事となり、人里離れた神社は、その創建の心をはじめ人々の記憶から忘れられていく。白山権現に守護られし土地になぜ人々は真田神社を建てたのか？趣意文の一部を紹介する。

「永世祭祀シテ

以テ其ノ神靈ヲ



正徳2年1712 山家神社宝物

お宮とお寺の仲良し小話 習合編③

無窮ニ慰メ 其威徳ヲ後世ニ輝カサント欲ス」
遠い海を越え尊い仏像、有難い經典、教え導く僧侶が、呼び名は様々であります。豊葦原の瑞穂国(日本)にもたらされました。仏様には名前がありました。説明をする文字がありました。指示をくださる僧侶がいました。あれ：今まで私たちがお祈りしていたものはなんなのだろう？この気づきこそ仏様がもたらした最初の功德であります。日本人が大地と共に生活する中で感じていた、カミという存在と、遙か文明の栄えた大国よりもたらされたホトケ。下から湧き起こった信仰と、上から降りてきた信仰。運命の出会い、その調和のお話を。(つづく)